

りそな経済フラッシュ (中東情勢のシナリオ)

 2024年 4月 17日
 りそなHD 市場企画部
 担当: 苅谷

1 イスラエルとイランの衝突

4月1日にイスラエルがシリアのイラン大使館を空爆、その報復として同14日イランは、イスラエル領土内にドローンやミサイルによる初めての直接攻撃を実施した。この攻撃は事前に予想されており、米国や英国等がミサイル等を撃墜したことや、標的が軍事施設であった為、被害は限定された。

これまで互いに直接攻撃を避けてきたが、ここにきて事態がエスカレーション、金融市場では株安・金利低下・円高・ドル高とリスクオフで反応した。

【これまでの対立】

2023 10月	・ハマスがイスラエル領土に侵入、約1,200人を殺害・数百人を人質に ・イスラエルがハマスが実質支配するガザ地区に侵攻、紛争開始
2024 4/1	<u>シリアのイラン大使館が空爆される</u> <u>(イスラエルによる攻撃と思われる)</u>
4/14	<u>イランがイスラエルの軍事施設にドローン・ミサイルで攻撃</u> <u>・米英イスラエル等がこれを撃墜し、被害は限定的</u>
4/15	G7首脳会議が開催、イランの攻撃を非難する声明文

2 懸念されるのは原油価格

中東情勢が一段と深刻化するケースで最も懸念されているのが原油価格である。イランの革命防衛隊幹部は「ホルムズ海峡の封鎖も可能」と発言、世界の原油の約2割にあたる日量2千万バレルが通過する海峡の封鎖を仄めかした。(右図参照)

現在欧米では急速な利上げの効果により、景気の減速とともにインフレが鎮静化に向かいつつあるが、原油価格の上昇を主因とした輸入物価が上昇してしまうと、中央銀行の金融政策では対応できず、スタグフレーションに陥ってしまうリスクが意識される。

【周辺の地理】

ホルムズ海峡の封鎖が懸念される



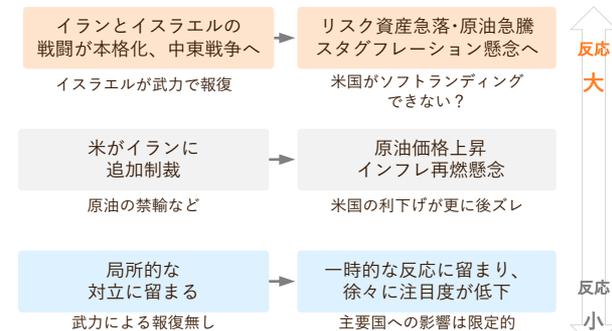
3 想定されるシナリオ

マーケットでは、今回の衝突が中東戦争へ発展するというリスクシナリオが意識されている。しかし、イラン側がイスラエルの攻撃に関して「問題はこれで終わった」と攻撃は今回の一度限りとし示唆したことや、大統領選を控えるバイデン大統領が「いかなる対抗措置にも米国は参加しない」とイスラエル側に伝えたとの報道等がマーケットの悲観的な見方を抑えている。今後「局所的な対立に留まる」との見方が広がってくれば、マーケットのこれ以上の混乱は避けられるものと予想される。

一方で、リスクシナリオが発現した場合、原油が急騰、スタグフレーション懸念の高まりとともに、リスクオフとして株安・金利低下・ドル高(有事のドル買い)で大きく反応するものと予想する。

【想定されるシナリオ】

中東戦争への拡大がリスクシナリオとして意識される



出所:各種報道、Bloomberg

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることがあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。